

声を届けにくい子どもや若者たちのことを忘れないで —子ども・若者支援の現場の声—

NPO法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重忠孝

はじめに

- ・10年目にしてはじめての若者からの電話

なくそう子どもの貧困ネットワークでの報告を振り返って

- ・なぜか三年ごとに呼んでもらっているようです。
 - 第12回子どもの貧困対策情報交換会（2020年6月） コロナ禍での報告
 - 子どもの貧困対策実践交流会2017（2017年10月） NPO法人化前夜
- ・あとメーリングリストでやたら金がない投稿ばかりですみません（苦笑）
 - 最前線で子どもの貧困対策をしている団体が貧困運営になりがちな問題

最近のこどもソーシャルワークセンター

- ①夕刻を支える夜の居場所トワイライトステイと日中や休日の居場所ほっとる一む
 - おかげで「国の支援対象児童等見守り強化事業」の補助を受けてやっています
- ②若者支援（居場所・ボランティア・就労支援）のユースホーム
 - 民間助成金が通らなかったのが今年度は実質手弁当
 - つぶやき「民間助成金申請と報告は正直疲れました。そろそろ卒業したい」
- ③ヤングケアラー支援（ピア活動・居場所／高校内居場所・体験・配食）
 - 活動が増えているのにしれっと今年度は滋賀県の補助金減額されました
 - つぶやき「10年前の子どもの貧困ブームと同じ歴史を歩んでいるなあ」

やっと本題「声を届けにくい子どもや若者たちのこと」

■こども家庭庁に資料から

「こども若者の声をきく」「こども若者の委員会などの参画」など

- ・ステージが一つあがったことは歓迎
- ・一方でますます声を出せないこども若者のことが忘れられていることを実感

貧困当事者の活動の難しさ

- ・行政や団体に利用されやすい
- ・ピア活動の難しさ（子どもとの距離感問題→厳しくすれば排除されるリスク）

■こどもソーシャルワークセンターのこども若者たちの姿から

- ・貧困のため小中学校など基礎学力がついていないので「ことば」での表現が苦手
- ・知的や発達課題をもっているのと同じく「ことば」での表現が苦手
- ・そもそも人前で発表するとかの経験が少ない（自信がない）
- ・安全安心の場（居場所）で仲間同士や一対一ならいいことをたくさん話す